

生坂村まち・ひと・しごと創生総合戦略策定審議会要旨

1. 日時及び場所 平成29年9月28日（金）午前10時
村民会館 講 堂
2. 出席者（26名） 高野茂吉(会長：区長会長)、牛越武男(農業委員)、平田勝章(村議会議長)、瀧澤龍一(村議会副議長)、吉澤弘迪(村議会議員)、字引文威(議員)、市川寿明(議員)、市川廣美(教育長)、平野和子(健康推進員会長)、太田顕史(商工会青年部長)、上手紀義(松本ハイランド農協生坂支所長)、宮川虎雄(松筑建設労働組合長)、平林敏生(社会福祉協議会長)、望月典子(女性の会会長)、臼井亮一(いくさか大好き隊)、中村光孝(いくさか大好き隊)、坂本充(県松本地域振興局企画振興課)
藤澤泰彦(村長)、牛越宏通(総務課長)、山本雅一(村づくり推進室長)、藤澤正司(住民課長)、山本かつ子(健康福祉課長)、松沢昌志(振興課長)、平野公恵(教育次長)、日岐孝(総務課財政係長)、中山茂也(総務課総務係長)

3. 協議事項

生坂村まち・ひと・しごと創生総合戦略（見直し後）について

Q：18頁、出産・子育て世帯への支援で、新生児助産師訪問と村単福祉医療措置率が100%。平成31年のKPI、いわゆる目標値も100%。評価しながら改善するという意味合いの中で、一体何を改善するのか

A：県からも100%は素晴らしいことだと評価されている。小さい村だからこそできるという面もあるが、KPI100%は基準値を維持し、減らさない努力をするという意味。人口減少やいろいろな要素で、若干減ってくるKPIはどうしても出てくる。事業実施をしながら基準値を下げないという意味でKPIを100%にしている。

Q：企業の場合は改善が前提にある。まず100%からスタートという点を疑問に思う。

A：企業と行政とのスタンスが違う。企業は業績を考えるが、行政は今行っているサービスを維持しなければならない。

Q：19頁、ぴよぴよひろば参加率が基準値90%からKPI95%になっている。介護や消防団は大体概要を把握できるが、これは何人参加できるかなどが不明。人数などの併記をした方がわかりやすいのではないか。パーセント表記だけでは実態がつかみにくい。

A：未就園児親子が参加対象。生坂の保育園に通う子供以外も含まれる。自宅にこもりがちな親子をいかに公共の場に出てもらおうかが事業の目的。対象人数については年度ごとに違うが、表記するように検討していきたい。

Q：村長に質問です。バイオマス発電については以前調査をしてもらい、現実的に難しいとの結果を得た。バイオマスに関する表記より、木材事業の新たな方向性について考え、早期に書き換えた方が良いのでは。

A：調査の結果、村の地形的に木材搬出が厳しく、採算性が低いとの報告を受けている。塩尻市の F パワー事業も順調にはいっていないようだ。とはいえ、荒廃する里山を放置できない。森林環境税が国会で認められそうな動きもある。実現する可能性は低いですが、今後も木質バイオマス事業も視野に入れていきたい。

Q：バイオマスを発電だけでなく、もっと広い範囲で利用できるような計画を立てた方がよいのでは。

A：なるべく計画の改定はしたくないが、皆さんと協議をしながらまた勉強させていただきたい。

Q：1年目の戦略会議の改正点を見ると、KPI などが改正されている。五か年計画で進められているが、毎年の達成率や経過を伝えてもらえれば、改善するべき点も見えてくるのでは。

A：KPI の今年度分は、今年度末に集計をして正確な数値を出したい。比較の方法については、今後どのような資料を作ればいいのか研究させてもらいたい。

Q：各課の人たちに変更点を説明していただいたが、これだけ見ているとよくわからない。前回と変わった所の細評なども渡していただければ、変更が良かったのかどうかの判断もしやすい。また評価はいつ行われるのか。年度末に評価というのわかるが、施策の検討が遅れる。

A：今回作成した KPI などを認めていただければ、正確を期するためにも、今年度末の KPI 数値を元に評価シートを作りたい。評価シートを元に、来年 4 月には今回のような審議会を開く計画。KPI の実績値を把握するためにも、どうしても年度末になる。

Q：数値目標の 100% を維持するという点について、どのような要件で数値が下落するのかを施策として挙げるべきでは。目標を達成するための施策と、維持するための施策は意味合いが変わってくると思う。

A：具体的な提言をいただければ、内容を見直していきたい。

Q：長期的、短期的に村政の転換はあるだろう。国に出さなければいけない計画というのはわかるが、あまり計画にこだわりすぎて村政が停滞しては意味がない。

A：村政運営は第五次総合計画に沿い、生坂村づくり計画を実施計画としている。毎年度見直さなければならない事業はたくさんある。そのなかで、地方創生もやらなければならない。見直すべきは毎年度見直していく。

Q：基準値や KPI などパーセント表記だが、分母や分子がいくつか知りたい。14 頁だと ICN 視聴戸数率は視聴率なのか、全世帯中に見える環境が整っている数字なのか、村道改良率は全何キロ中何キロなのか、改善すべき道の何キロのうちの何キロなのかなど。

A：計画書ではなく評価でいくので、その結果として分母や分子、説明を書き加えたいと思う。